

第47回古代史を解明する会

日本人の起源

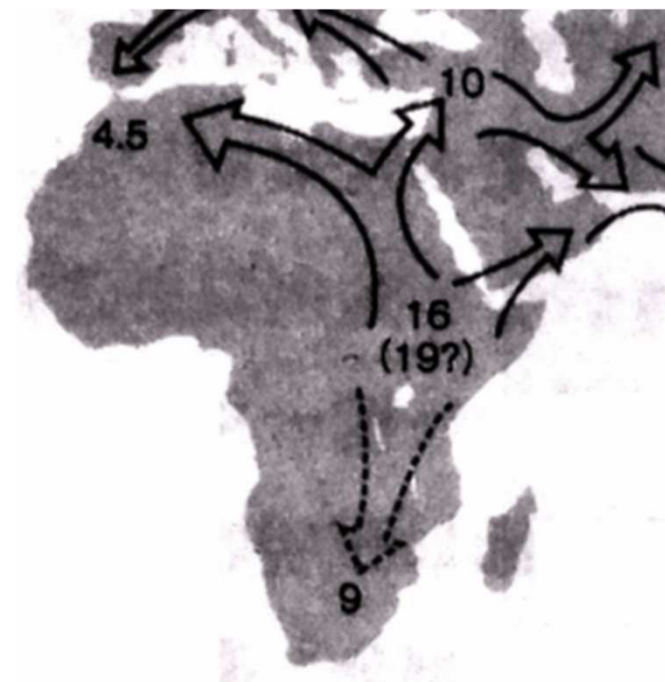
最新のDNA成果を反映する

2025年1月18日

丸地三郎

従来の課題点

- 2021年1月23日に当会で「日本人の起源」基本レポートを実施
 - 現時点で、改めて、この基本レポートの課題点を指摘する。
 - 2025年までの4年間で、判明した事実から、解明された事実が有る。
1. 出アフリカの出発点・2案:
 - ①シナイ半島経由
 - ②アラビア半島の先端を経由
 2. ヒマラヤ南ルート/北ルート
 - ① 南ルート
 - ② 北ルート
 3. 日本への渡来ルート
 - ① シベリヤ・サハリンルート
 - ② 朝鮮半島ルート
 - ③ 台湾ルート
 4. スンダ大陸から日本へのルート
 - スンダ大陸からパプアニューギニア・オーストラリアへのルート
 5. 沖縄出土の古代人 消滅説
 6. 日本人3重構造説
 7. 九州の縄文人に、弥生渡来人のDNAが混在
 8. 沖縄の宝貝産地説



従来の課題点の解答-1

• 課題点

1. 出アフリカの出発点・2案:

①シナイ半島経由 ----- ○

②アラビア半島の先端を経由 ---- ✕

- ✓ 出アフリカをした新人(ホモサピエンス)の多くに、旧人(ネアンデルタール人・デニソワ人)の混血が認められたことから、シナイ半島付近に居た旧人と混血したと判断され、シナイ半島経由が有力となった。

2. ヒマラヤ南ルート/北ルート

① 南ルート-----○

② 北ルート-----✕

- ✓ 石器の分布から来たルートは、考古学者が北ルートを有力としてきたが、東アジアの民族群のDNA解析及び、北ルート上のマルタ遺跡人の影響が無いことから、北ルートは無かったと判明。

3. 日本への渡来ルート

① シベリヤ・サハリンルート-----✕

② 朝鮮半島ルート-----✕

③ 台湾ルート-----✕

- ✓ シベリヤ・サハリンルートは、日本の旧石器時代(3万年前以降)に北海道の黒曜石を持った日本先住民が進出し、サハリンへの元寇(13-14世紀)まで継続し、現在の住民にも日本先住民のD2のY-DNAが存在。細石刃石器の技術と人の移動は、連動する根拠が無い。
- ✓ 朝鮮ルートは、朝鮮側の考古学の成果では、旧人が存在した痕跡は有るが、それ以降、1万年前まで新人の存在した痕跡は無い。1万年前以降は、日本の先住民が朝鮮半島の奥まで移住し、縄文遺跡を残す。従って、朝鮮半島からの移住は無い。
- ✓ 台湾ルートは、科学博物館の海部氏が丸木舟を作り実験し、成功したが、3万年前に台湾から渡来したとの前提自体に疑問符が付き、3万8千年前に日本に到達していた先住民の祖先にはなり得ないと、否定的見解が大多数になった。

従来の課題点の解答-2

4. スンダ大陸から日本へのルート

- スンダ大陸からパプアニューギニア・オーストラリアへのルート

✓ シベリヤ・サハリン/朝鮮/台湾ルートの可能性が否定されると、残るルートは、スンダ大陸からのルート。5-6万年前にスンダ大陸から80kmの海を越えてオーストラリア大陸への移動が確認されており、技術的には、帆付の舟が有力視されている。

- この件は、別頁で記述する。

5. 沖縄出土の古代人 消滅説

✓ 沖縄国際大学と沖縄大学の学長を歴任した高宮廣衛とその子の鹿児島大学教授高宮広土が積極的に唱えてきた説で、「旧石器文化人が島嶼環境に適応できずに島を去るか絶滅した」との説が、沖縄の歴史では常識であった。

✓ 2007年人骨の発見された石垣島の白保竿根田原洞穴遺跡などの研究成果などから人骨発見の時代から連続性が認められ、「旧石器人の消滅説」は否定された模様。

✓ 「旧石器人の消滅説」は2025年には、ネット上では、殆ど見つからない状況に至った。

- この件は、別頁で記述する。

6. 日本人3重構造説

✓ 2024年10月に発表された「土井ヶ浜遺跡の人骨DNA解析結果」の中で、弥生人のDNAの代表モデルの取り扱いの変更が行われ、(取り扱い間違いがあった)三重構造説は否定された。

- この件は、第45回 11/9日の資料を参照下さい。

7. 九州の縄文人に、弥生渡来人のDNAが混在

✓ 弥生時代まで生きた縄文人のDNA解析を行った結果、縄文人と弥生人の混血であったことが判明。

✓ 韓国南岸部の6400年前の古代人のDNA解析の結果、縄文人と弥生人の混血と判明。

- この件は、別頁で取り上げ、記述する。

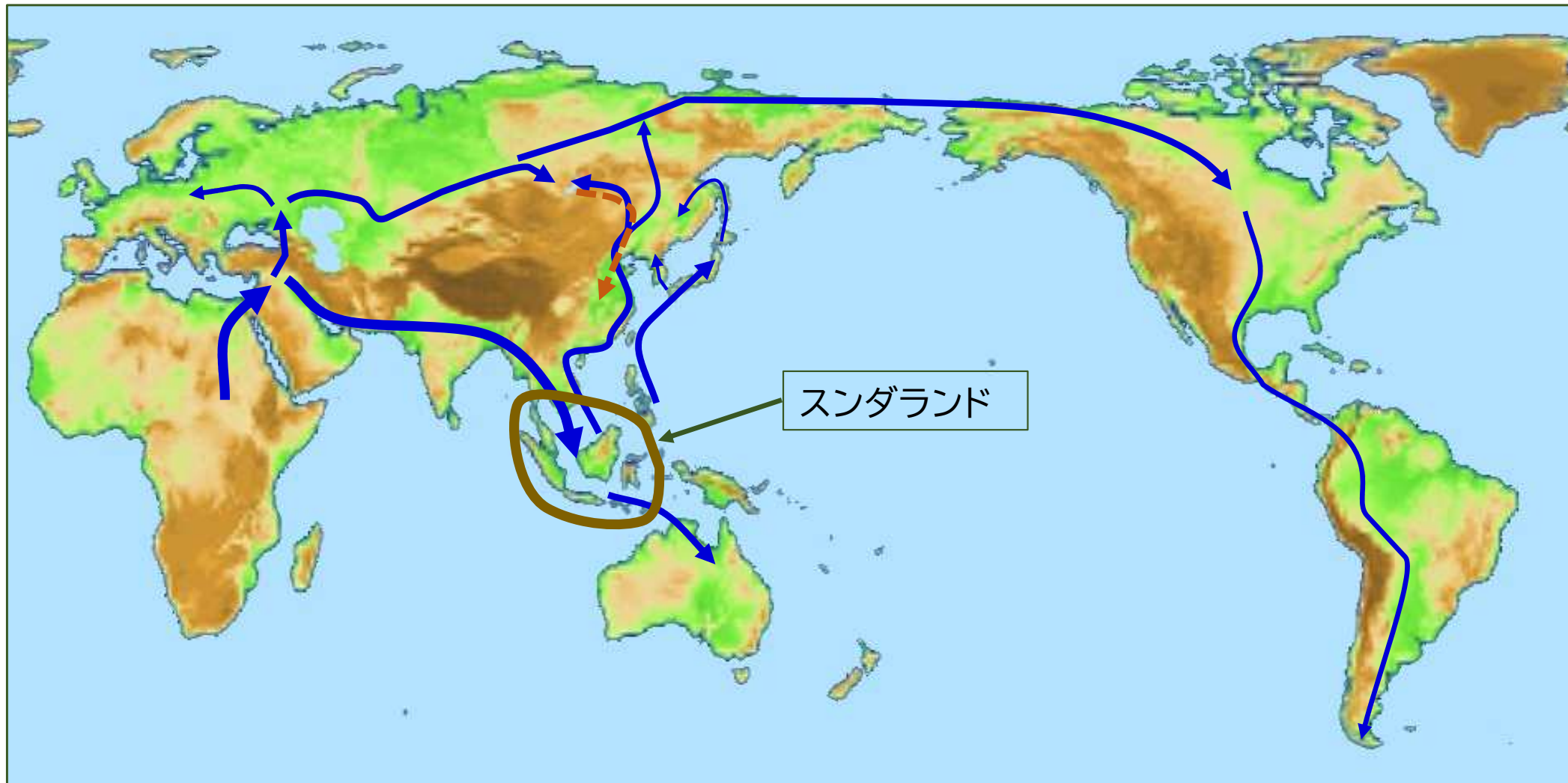
8. 沖縄の宝貝産地説

- 新しい資料と材料が見つかり、別途説明、紹介を行う。

2021年1月の「日本人の起源」基本レポート

- 基本レポートについて、今回見直して、修正・訂正すべき個所は少なく、下記の通り。
 - 出アフリカから東アジアまでの渡来ルート(8~11頁)
 - アラビア半島の先端を經由の出アフリカコースは無い。
 - ヒマラヤ北ルートは無くなる。
 - DNA関係でミトコンドリアDNAに、(34-35頁)関しては、削除。
 - 篠田謙一氏の縄文人のミトコンドリアDNAに関する調査結果は、本人からの訂正は無いが、誤りの可能性が高く、削除します。
 - 34頁には、ヒマラヤ北ルートへの疑問を提示していました。
 - 沖縄の特異性(39~42頁)
 - 「旧石器人の消滅説」に対する反論を記載していたが、今更、強調することは無くなったのは幸い。

日本人を主にした出アフリカ拡散ルート案



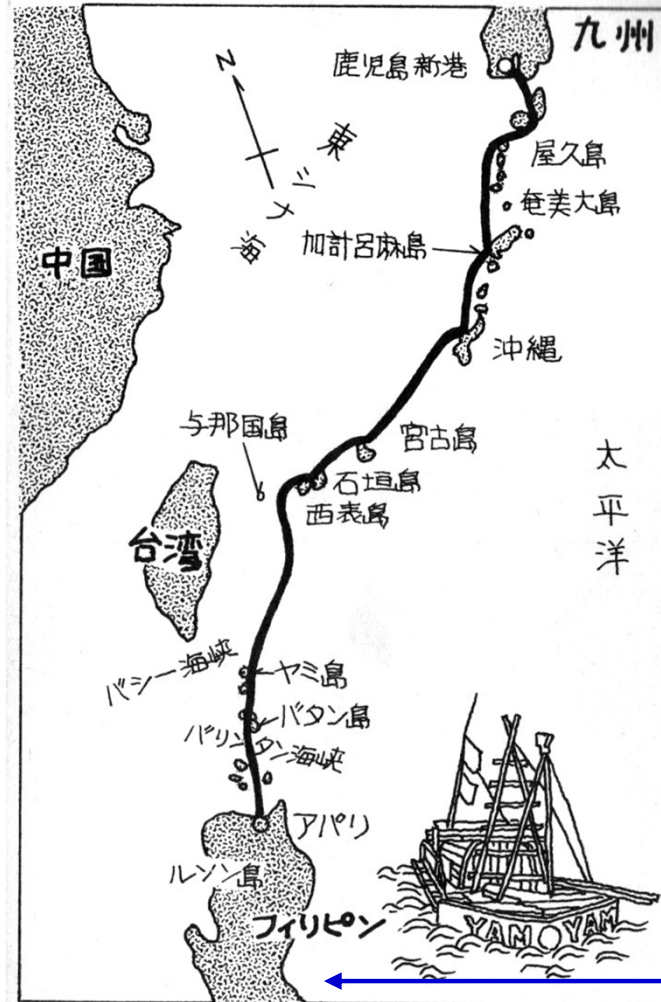
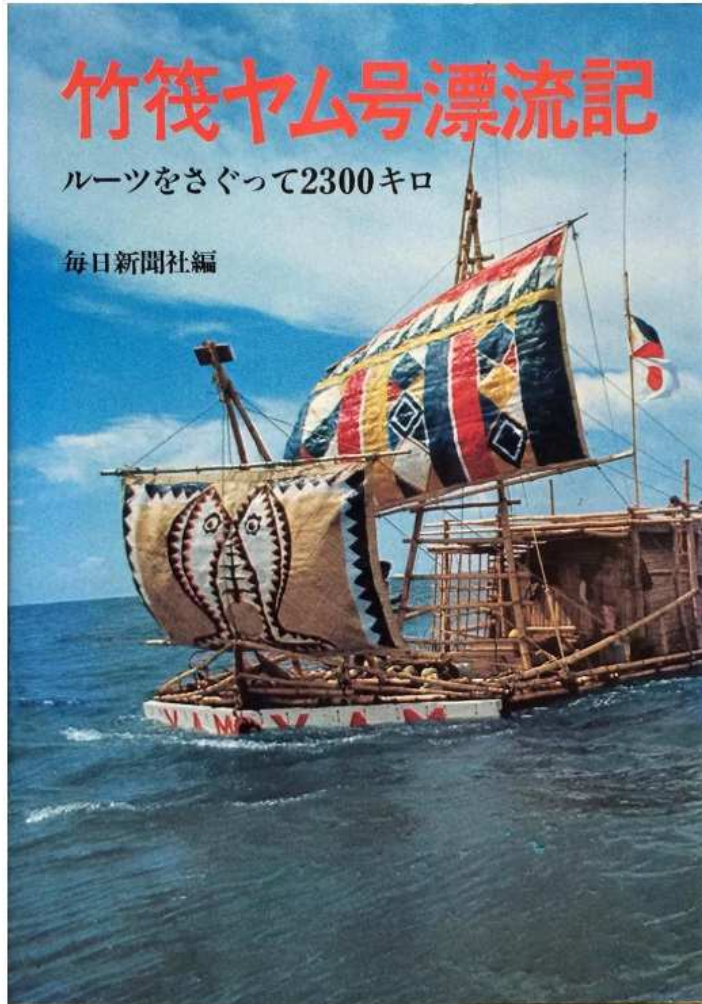
- 出アフリカ→スンダランド : 7万~6万年前
- スンダランド→オーストラリア : 5万年前
- スンダランド→フィリピン→沖縄・日本列島 : 4万年前
- スンダランド→中国大陸→バイカル湖周辺 : 4万年前
- バイカル湖周辺→中国大陸 : 2万年前以降
- 日本→北海道→シベリヤ : 3万5千年前

- 出アフリカ→コーカサス山脈越え : 5~4万年前
- コーカサス→ステップ地帯・バイカル湖 : 4.5万年前
- コーカサス山脈→ヨーロッパ : 3万年前
- シベリヤ→アラスカ→アメリカ大陸 : 1.4万年前

スンダランドから日本へのルート

- 旧石器人(D2/D1b/D1a2a-M55)及び(C1/C1al/C-M8)の渡来ルートはスンダランドからの到来と推定される。
 - その渡来ルートは、従来、北ルート/朝鮮半島ルート/台湾ルートなどが論じられたが、現実的な根拠が無い。
 - 一番可能性が高いのは、スンダランドに隣接したフィリピンに居住し、4万年前に、帆付の丸木舟で、黒潮に乗り、直接沖縄・日本本土へ到着したルートと考える。根拠は以下に示す。
- 1. スンダランドから5万年前にオーストラリアとパプアニューギニアへ移住した人々は、海面低下を考慮しても、80km以上の海を渡り、移住している。文化人類学者/考古学者から、この移住の方法の最も有力な方法は、帆の付いた筏又は小舟と推定されている。
- 2. 台湾からの移住は、海部氏の実験では、2回の失敗があり、最終的に丸木舟を手漕ぎで渡来に成功したが、現実的な民族移動の方法としては、不可能なものと思われる。
- 3. フィリピンから沖縄・日本本土への実験航海や戦時中の避難航海の成功例があり、現実的な民族移動の方法と推定できる。
 1. 1977年 竹筏ヤム号にてフィリピン・ルソン島出発→鹿児島港 2300km
(双葉文庫 ヤム号漂流記 倉島 康著 / 毎日新聞社 竹筏ヤム号漂流記-ルーツをさぐって2300キロ)
 2. 1977年 木造双胴帆船でフィリピン・ルソン島出発→鹿児島港 2500km
(角川文庫 翔べ怪鳥モア―野性号IIの冒険・)
 3. 1946年6月 9名の日本兵 1隻のカヌー(アウトリガー付き)に乗りフィリピン・ポリリオ島(ポリリヨ島)→屋久島 2600km 30日間
(波頭二千六百キロ 日本兵の漂流--ポリリオ島 「アジア海道紀行」の一部 足立倫行著)
- 黒潮に乗り、30日~44日で日本本土へ到着しており、フィリピン付近で、海洋航海に経験を積んだ人々ならば、沖縄・日本本土への航海は可能であったと推定する。
- 日本の先住民の遺跡からは、磨製石斧が出土し、丸木舟用に木材を伐採し、加工が可能であったと推測される。沖縄の在来の丸木舟のサバニは、単純で、使いやすい帆が付く。

竹筏ヤム号・9名の日本兵の舟 及び 航路



ヤム号航路略図



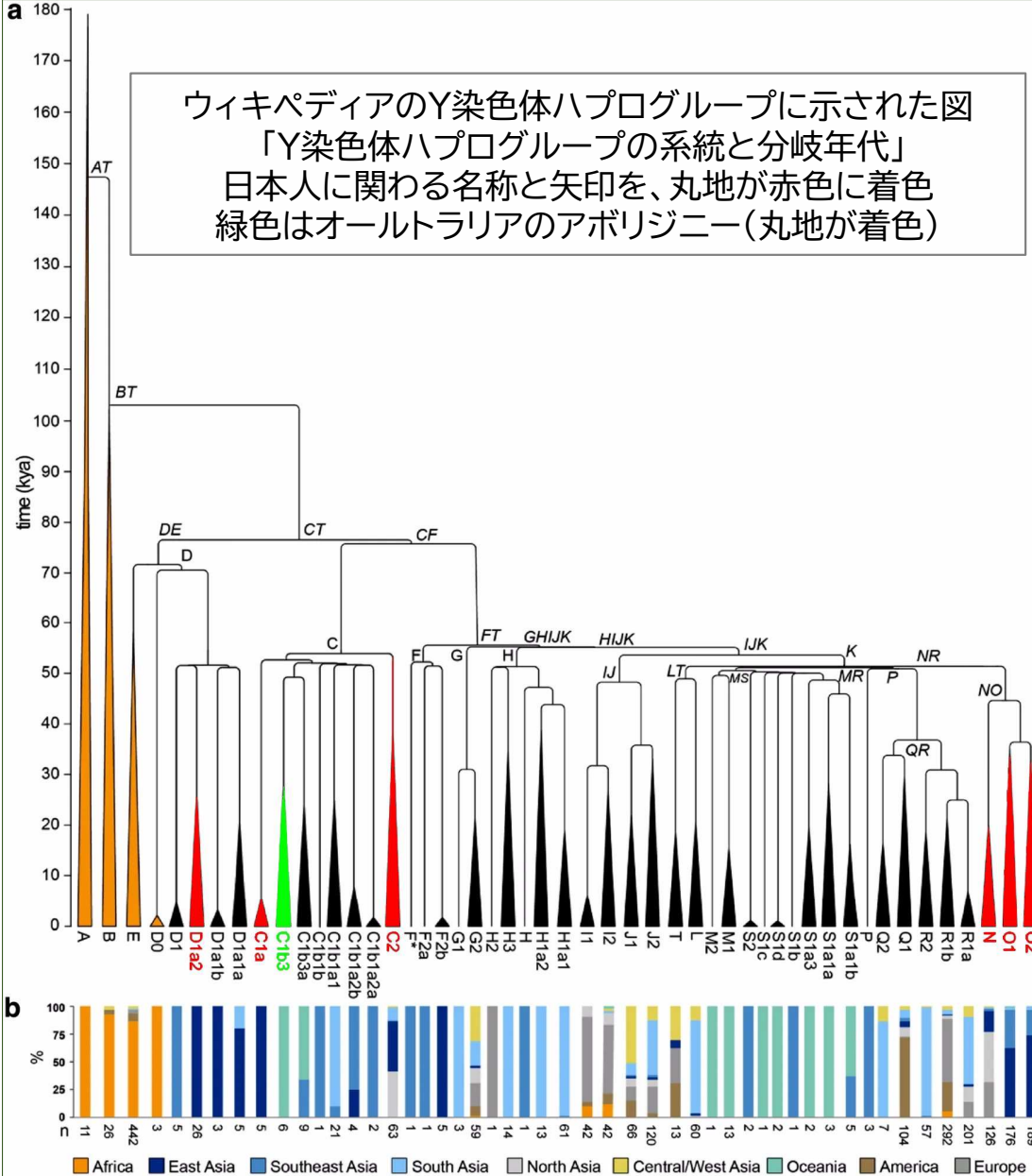
日本兵の乗った船は上記より大型で帆付

<http://cb1100f.b10.coreserver.jp/omake4.html> より借用

9名の日本兵が出発したポリリオ島は、この付近の島

スンダランドから日本へのルート

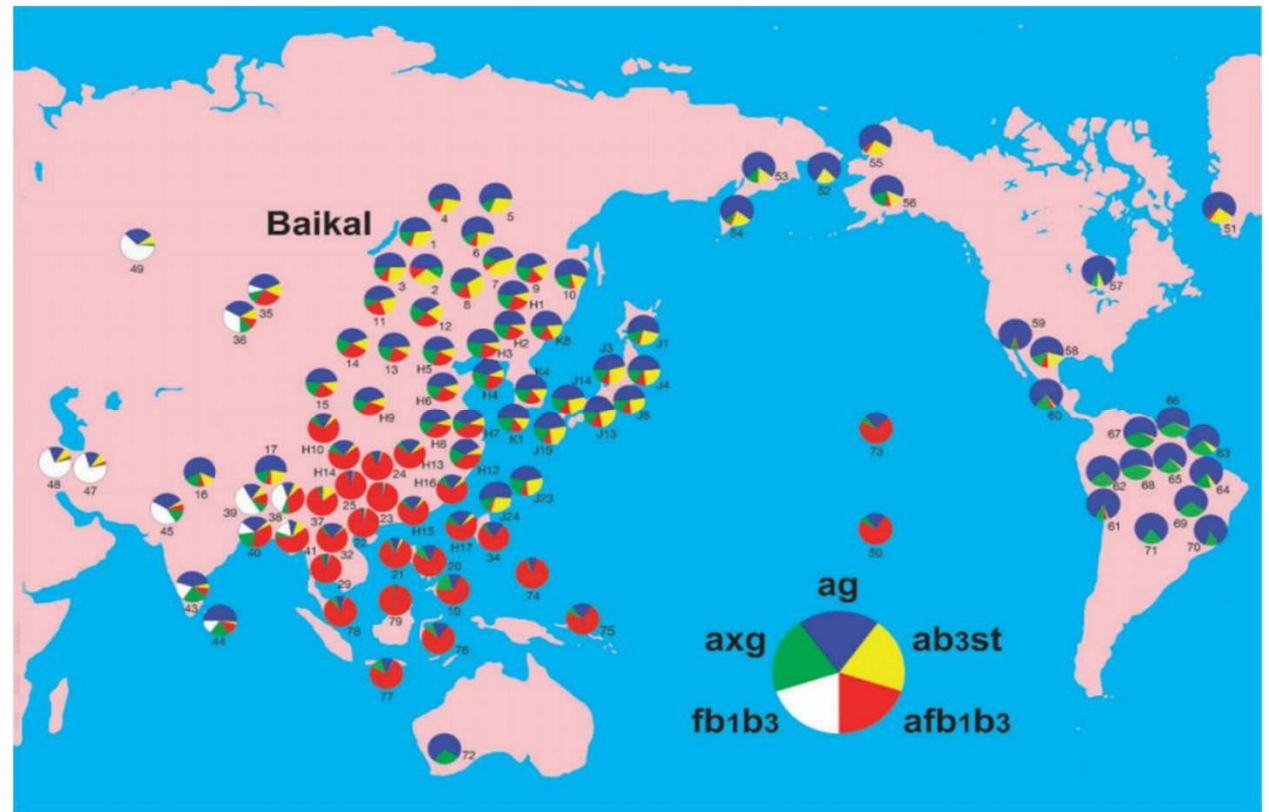
ウィキペディアのY染色体ハプログループに示された図「Y染色体ハプログループの系統と分岐年代」
日本人に関わる名称と矢印を、丸地が赤色に着色
緑色はオーストラリアのアボリジニー(丸地が着色)



- ウィキペディアのY染色体ハプログループに示された図「Y染色体ハプログループの系統と分岐年代」
- 日本の縄文人のY-DNAは、この図上では、D1a2とC1a。オーストラリアのアボリジニーは、C1b3。
 - D1a2は、旧D2で、D-M55とも表記される
 - C1aは、旧C1でC1a1とも表記される)
- DグループとCグループは、この図から、最初に分岐したものと言え、スンダランドに最初に到着したグループと考えられる。
- C1b3は、舟と帆を使いオーストラリアに5万年前頃に移住したと、文化人類学者などは推定。
- 縄文人のD1a2とC1aも、4万年前に舟と帆を使い、スンダランドから移動したとしても、おかしくない。
- C2(C-M8)は、シベリヤの東北部に居住したオロチョン族・エベンキ族などで、旧石器時代にシベリヤで縄文人と混血した可能性があり、その後、5～6世紀にオホーツク人が北海道へ到来し、アイヌ人と混血した。この歴史年代の混血の結果が、現代人のDNAに影響していると思われる。
- 弥生渡来人のY-DNAであるO系統は、分岐された時期は比較的新しく、スンダランドへ到来した人種としては、最後のグループと推定される。
 - 4万年前に、陸上を徒歩で北上した民族に含まれた。
 - 北上せず、残存しスンダランドの新しい主役となった。
 - 北上の原因をもたらしたと推定する。
 - 原因は熱帯マラリアと推定。

免疫グロブリンG(Gm)の標識遺伝子の分布 の解釈

- 東アジアの民族は、ヒマラヤ北ルートを通らなかったことから、Gm遺伝子の分布を改めて解釈する。
- スンダ大陸に居た多くの民族が陸上ルートで、バイカル湖付近に行き、極寒期の2万年前を経過し、体形を大型化し、変形させ北方体系の民族と変化した。後に、再び、南方へ移動したと推測される。
- 極寒期2万年前以降、スンダ大陸は海面上昇で面積が減少し、北方への移住が始まった。
- 中国大陸では、北方・南方の両グループが集まり、混血が発生したと推定。
- その結果が、赤色と青/緑/黄の割合が表の図のように分解されたものと推定。
- 日本は、海で隔離されたため、スンダ大陸の状態が保たれたと推定。弥生渡来人も比較的混血が少なく、バイカル湖周辺に近い状態が保たれたもの。



免疫グロブリンG(Gm)の標識遺伝子の分布
世界のモンゴロイド、130集団についての調査結果
大阪医科大学名誉教授の松本秀雄博士の書物
「日本人は何処から来たか」

- ✓ 日本人を主にした出アフリカ拡散ルート案に記した茶色のバイカル湖から中国大陸へ移動ルートは上記の移動を反映したもの。

検討の条件：古代日本の地理的特殊性

• 古代日本の地理的特殊性

1. 海に囲まれた国であること。
 - 舟・船での渡来が必須条件
2. 大陸側とは、黒潮で隔てられていた。(黒潮は、世界最大の海流)
 - 舟・船に乗りなれた人でも、黒潮を越えることは、脅威。
 - 古代人の地球観では、巨大な海流の流れる先は、海の果て。恐怖の地域。
 - 中国人は、古代には、黒潮を越えることは出来なかった。
 - 三国志の時代の呉ですら不可だった。
 - 黒潮を越えることができたのは、倭人だけ。呉志・後漢書に記録有り。
 - 黒潮を越えることが可能な民族は、黒潮の近くを舟で回遊していた民族。
 - 帆を装備した舟を所有していた民族
3. 海面上下に由来する大陸との徒歩往来の可否
 - 氷河期には海面が低下して、人が徒歩で渡れることで、大陸間の移動の可能性を検討。
 - 新人(ホモサピエンス)が移動した時期は5－6万年以降、その期間中に絞ると
 - 2万年前の極寒期に、海面低下が100mを越えた。
 - この時期に、朝鮮半島と九州の間は陸続きにはならなかった。
 - 本州と北海道の間も海で隔てられた。
 - 北海道とサハリン・シベリアは陸続きになった。

• 海洋民族と非海洋民族

- 大多数の人が、泳げるか？ ・泳げないか
- 舟・船に乗り移動するには、泳げる必要がある。
 - 物理的には、乗船するには、泳げることは不必要だが、民族移動を考慮する時は不可欠な条件。

検討の条件：言語など

現在の日本では日本語が使われている。

弥生渡来民が日本に来た後に、縄文人と混血し、言語は日本語に置き換わったと推定される。
母国語が変わったことになる。

その変化の時に縄文人が絶滅した訳ではない。

縄文人の血はその後、現在までも存続している。

地域差が有るが、Y遺伝子では20%から60%存続する。

- 一つの国で、ある時期から、母国語が、別の母国語に置き換わる条件
 - 言語学に答えを探したが、答が有るようには見えない。
 - 一つの国の母国語は、通常は変わらない。
 - ある国に、少数の他民族が入ってきた場合は、
 - 他民族は排除される。又は、
 - 吸収され、混血し、少数民族の言語は消滅し、母国語は変わらない。
 - ある国に、別民族が攻め入り、住民を支配下に置いた場合。
 - 言語は二分化し、支配民族の言語と被支配民族の言語が併存する。
 - この状態が、長く続いた場合には、支配民族の言語に母国語が置き換わる。
 - 世界史上の実例が存在する。
- 日本の先住民である縄文人は、
 - 磨製石器を世界に先駆け、3万年前から活用してきた優れた民族（日本以外では、1万年前に開始）
 - 条件の厳しい黒潮の流域をベースにした海洋民族
 - 沖縄、九州・本州から、北海道→樺太→シベリヤへ、九州から朝鮮半島へ進出していた民族。
- 決して、無能な野蛮人では無かった。
- 弥生時代には、何が、どんなことが起きていたのだろうか？

沖縄出土の古代人 消滅説

- 沖縄国際大学と沖縄大学の学長を歴任した高宮廣衛とその子の鹿児島大学教授高宮広土が積極的に唱えてきた説で、「旧石器文化人が島嶼環境に適応できずに島を去るか絶滅した」との説が、沖縄の歴史では常識であった。
- 沖縄の古代人骨に残る旧石器人は滅亡したとの説は、現在のインターネット上では、殆どが消滅している。手元などに残る書籍等から下記の2件を示し、いかに圧倒的な説で、反論が認められなかったことが判る。
 - 2010年発行の月刊考古学ジャーナルは、特集「南西諸島の考古学」で、高宮広土氏が総論：南西諸島の先史学を記す。7件の論文が記載されたが、その全ては高宮氏が論者・テーマを選定したもの。
 - その内の1論文は伊藤慎一氏の「ヒトはいつどのように琉球列島に定着したのか？」で「滅亡論」を否定する論文。この論文に対して、高宮氏は総論で、「旧石器時代の人々が現代の琉球列島の人々の直接の祖先であったとすれば、世界的に大変珍しい情報を提供するものと思われる。」とあざ笑うかのコメントを記した。
 - 2011年発行民博通信 NO133 『日本列島への先史人類の移動と拡散共同研究文』 印東道子著が有る。
 - 「琉球諸島内で、在来の旧石器文化人とあとからやってきた新石器文化人とが出会った可能性については、研究者の意見は一致していない。高宮は、旧石器文化人が島嶼環境に適応できずに島を去るか絶滅したため、このような出会いはなかったと考える。」 ---- 旧石器人絶滅が前提となっている。
 - 海部陽介(国立科学博物館)は、コンピュータを使って(港川人骨の)仮想復元を行った結果を紹介した。
 - 1)港川人と本土の縄文人はあまり似ていない。旧石器文化人と縄文人との連続性は、少なくとも沖縄では認められない。
 - 2)港川人と形態特徴がもっとも近い現代人集団は、アジア人ではなくオーストラリア・ニューギニアの人である。
 - 「共同研究文」で旧石器人、絶滅のシナリオを示したのは、下記
 - 海部陽介「後期更新世のアジアにおける人の移動誌：港川人の再検討を中心に」
 - 高宮広土「南島中部圏へのヒトの拡散と適応過程」
 - 米田穰・中川良平「琉球諸島へのヒトの拡散：『最後の陸橋』はあったのか？」
 - 石田肇「琉球諸島のヒト——過去から現代まで」

沖縄出土の古代人 消滅説を覆した事実-1

- 2002年 九州大学医学部 古賀英也氏が『西南日本人のストレスマーカー』/論文発表
 - 沖縄の旧石器人の絶滅説の唯一の根拠である骨に残るハリス線(飢餓の痕跡)を統計的に解析
 - 縄文・弥生・古墳・中世・近世・現代の男女649名の人骨を解析。ハリス線の出現率を算出。
 - 現代人でも50%にハリス線が存在し、ハリス線が絶滅を示すものでは無いことを証明。

表7 男女別ハリス線出現頻度

時代	男性		女性		
	観察数	出現数 (%)	観察数	出現数 (%)	
縄文	9	3 (33.3)	4	1 (25.0)	
弥生	古浦	10	7 (70.0)	9	4 (47.2)
	土井ヶ浜	37	8 (23.5)	33	6 (18.2)
	福岡・佐賀	96	47 (49.2)	51	22 (43.1)
	広田	16	1 (6.2)	11	1 (9.0)
古墳	墳丘墓	26	13 (50.0)	4	2 (50.0)
	横穴墓	25	16 (64.0)	5	2 (40.0)
中世	吉母浜	19	9 (47.4)	19	9 (47.4)
近世	天福寺	30	17 (56.7)	27	11 (40.7)
	原田	33	19 (57.6)	24	13 (54.2)
現代	143	68 (47.5)	18	11 (61.1)	

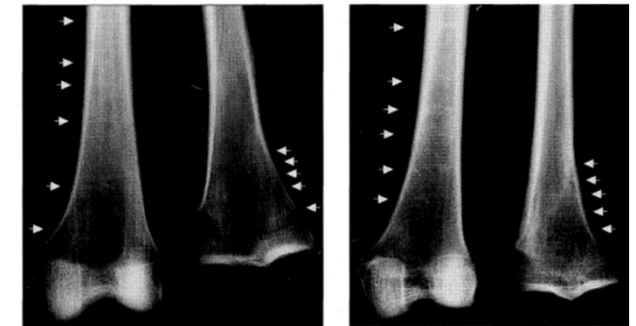
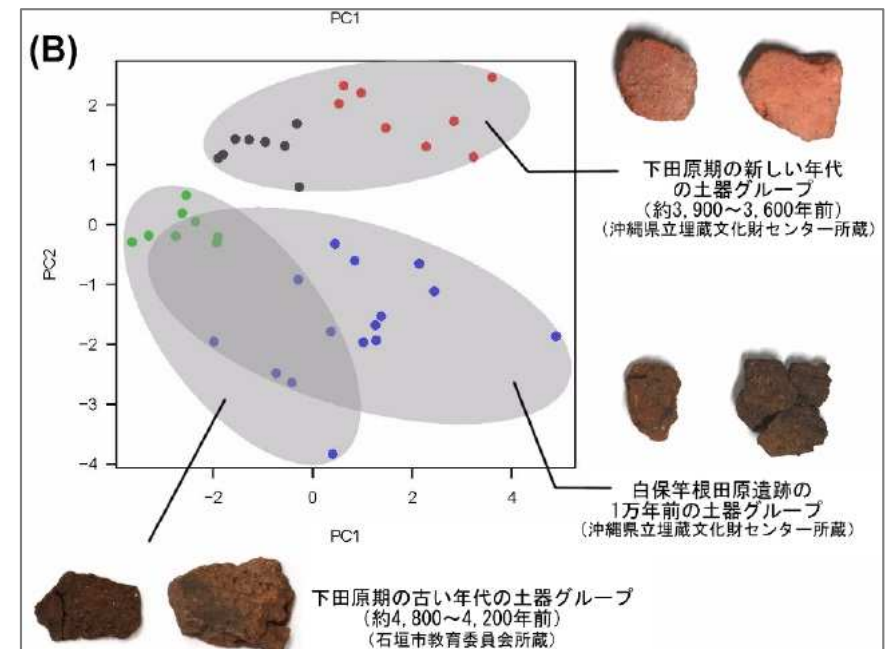
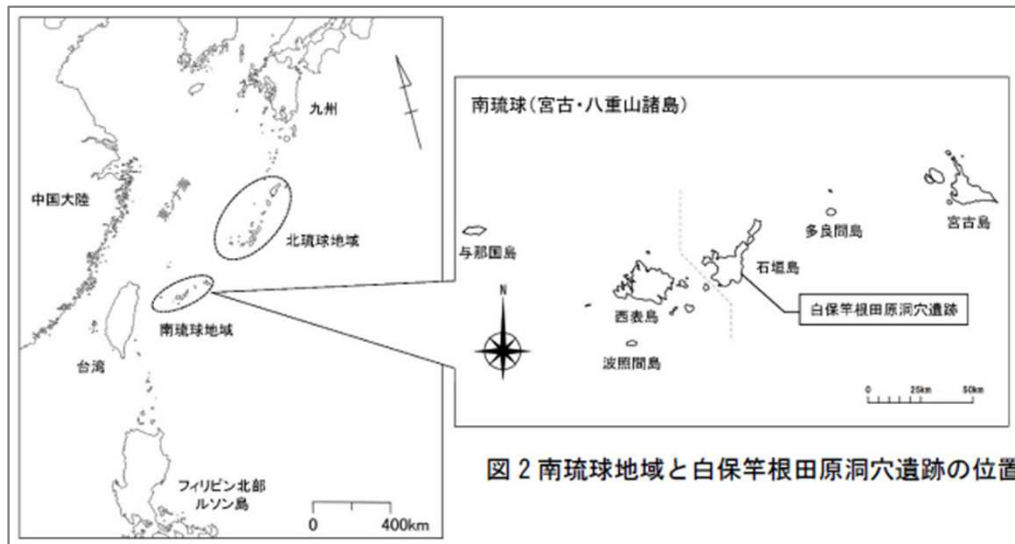


図1 ハリス線のレントゲン写真像(現代人)

- 2021年11月「沖縄で1万～9000年前の人骨発見 貝塚時代で最古、「空白期」埋める 藪地洞穴遺跡」
新着ニュース バックナンバー2で取り上げました。
 - 沖縄県うるま市の藪地洞穴遺跡で、約1万～9千年前の貝塚時代の人骨が発見されたことを8日、うるま市教育委員会が発表した。
 - 次頁の絶滅を否定する研究発表を、支える発掘やその成果発表が、複数行われた。

沖縄出土の古代人 消滅説を覆した事実-2

- 2019年 琉球大学発表
 - 2007年 沖縄県石垣市 白保竿根田原洞穴遺跡で
 - 人骨発見。2万8千年前の人骨。
 - 1.8万年前/1.5万年前の人骨など19体分
 - 2万3千年前から1万4千年前の時期の貝具・装飾品など多数発見
 - 1万年前の土器、出土。下田原期(4800~3600年前)の土器出土。
 - 土器の胎土を解析。1万年前の土器と、4800~4200年前の下田原式土器の胎土が共通し、3900~3600年前の土器の胎土が異なることが判明。
 - 1万年前から4200年前までの土器は共通技術で作成されたことが判明。
 - 1万年前から4200年前までは、同じ文化を持つ民族が継続していたことが判明。
 - 人骨・貝具等と土器の分析により、凡3万年前から旧石器人が継続して沖縄石垣島で生息したことが証明された。



沖縄と日本の歴史 今まで2回のサマリー

第14回古代史を解明する会
2022/2/12
基本レポート日本人の起源
沖縄と宝貝 14頁

- 凡そ4万年前に、旧石器人は、スンダ大陸から沖縄・日本本土に来て居住地を広げた。
 - 北海道以北は、5千年ほど遅れて、少数の家族が到達し、居住。
- 3万年前の鹿児島湾・始良カルデラが噴火、九州の旧石器人は、全滅。四国・中国も減少。
- 2万年前、沖縄では、海面は低下したままで、温暖化が始まり、各島の面積は広く、生存に適した状態が続き、順調に人口を増加。各島間の交流は、帆付サバニ(丸木舟)で盛んに行われ、シカ類が絶滅した後は、イノシシを各島に移し繁殖させ、食料とした。
- 1.4万年前、楯ノ原式石斧(丸ノミ形石斧)を開発し、丸木舟の掘削の効率化を図り、サバニの製造に供した。
- 1.4万年前より、人が住めるようになった九州に、沖縄から移住が始まる。楯ノ原遺跡に加え、西九州に居住地を広げた。1.28万年前、再び火山爆発があり、桜島薩摩火山灰で楯ノ原遺跡滅亡。
- このころより長期間に渡り、帆付サバニで、沖縄から九州・日本海を北上し北海道まで交易範囲を広げ、各地の特産品を沖縄へ運んだ。
- 9.5千年前、再び沖縄より九州へ移住。上野原遺跡に居住。
 - 7.3千年前、鬼界カルデラの破局的噴火があり、上野原遺跡は被害を被る。

旧石器人の死滅
は無かった！








【大陸との交流が始まる】

- 熱帯ジャポニカ米が、沖縄から陸稲として日本に伝わり、ほぼ、日本全土に伝わったと推測される。
- 6千年前～4千年前まで、中国の耳飾り「玦」が日本でも流行。やはり、中国・日本で同期する。
- 3.2千年前～2.4千年前、「縄文後期黒色研磨土器」(河姆渡の黒陶に酷似)が九州全域に伝わり、石包丁、甕棺埋葬が見られ、米のプラントオパールも検出。
- 山形県で殷の時代の青銅製刀子(26cm)が出土。
- 中国・河姆渡では、ヒスイが硬玉として尊ばれ、漆が使用開始。
- 西北九州縄文/弥生人と半島南部の加徳島/獐項遺跡のDNAの謎

この理由を探る！

沖縄出土の古代人 消滅説の痕跡

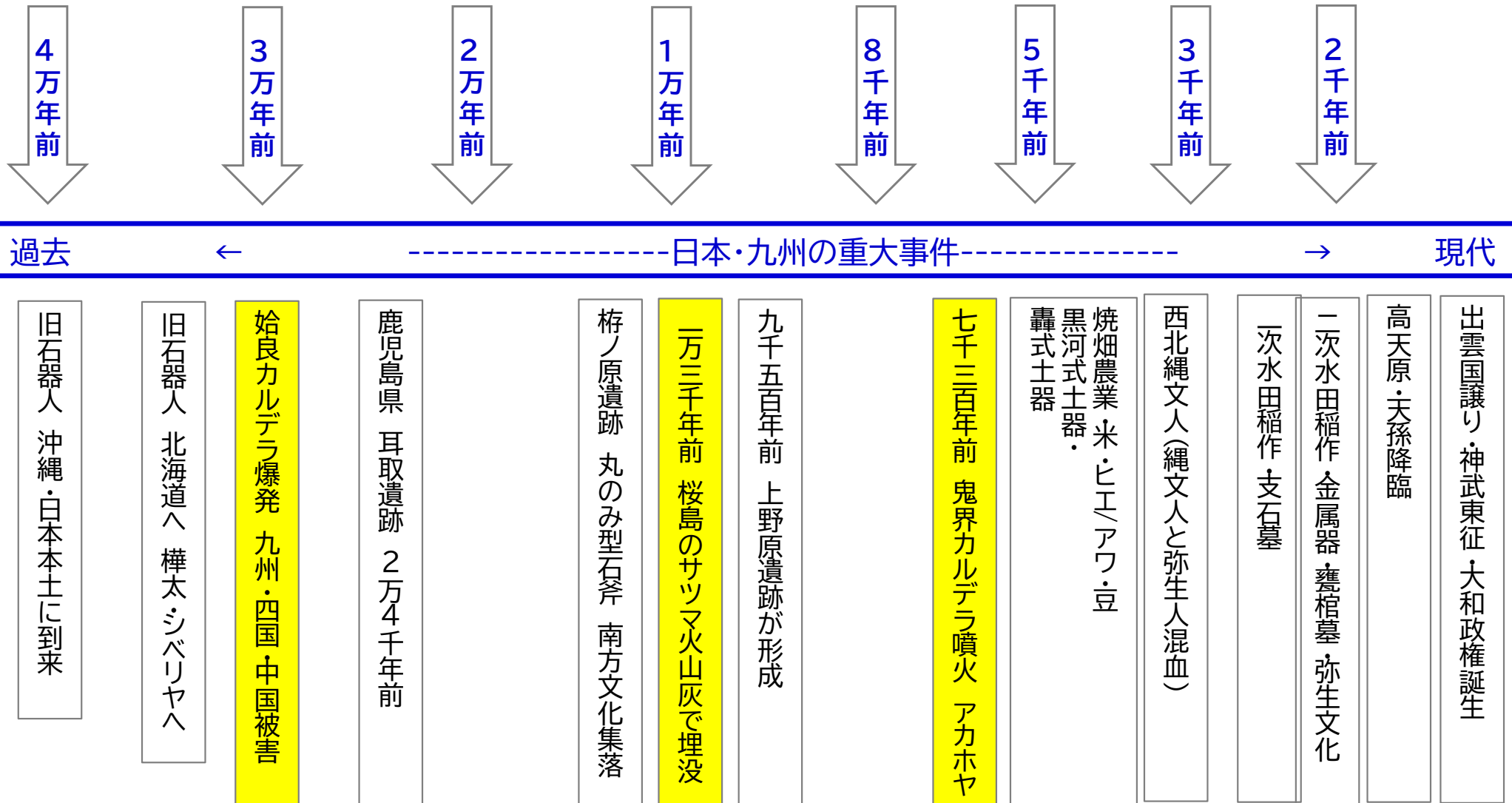
- 「旧石器人絶滅説」の悪影響が、沖縄・琉球に関する各種の論文発表に、今も、悪影響が残存する。
- 琉球祖語と日本語との関係：
2024年9月に行った44.「日本語・琉球祖語から見た日本人の起源」にあったように、沖縄の琉球語は、人が絶滅した沖縄へ九州から人が移動したとの誤った学説をベースに言語学も振り回されていた。
- DNA解析の解釈：
新着ニュースバンクナンバー01で取り上げた「2万年前の沖縄・港川人 DNA 解析～新聞社間で解釈が正反対」と、有るように、学者の一人は、「旧石器人絶滅説」に合致する解釈を取り、他方はそれを無視し、DNAの解釈だけで正しい解釈を行ったために、論文の中の解釈が割れていた。その結果、新聞社の記事内容も割れる不可思議なことが起きた。
- その外にも、沖縄の古代史に関して、悪影響があり、今後、見直されることが多出事になることになる。

暦年較正年代 Date	¹⁴ C年代 BP	沖縄の人骨化石と土器文化 Human bone and pottery culture in Okinawa	サキタリ洞遺跡 Sakitari-do cave site	日本 Japan	地質年代
36000年前	32000BP	山下町第一洞穴人 Yamashita-cho		旧石器時代 Palaeolithic	更新世 Pleistocene
30000年前	26000BP		人骨 human bone 		
23000年前	19000BP		貝器と人骨 Shell tools and human bones 		
22000年前	18000BP	港川人 Minatogawa 		縄文時代 Jomon	完新世 Holocene
20000年前	16000BP				
15000年前	13000BP	空白の時代 Blank period of human history			
14000年前	12000BP		石英製石器と人骨 Stone artifacts and human bones 		
11000年前	10000BP				
10000年前	9000BP				
9000年前	8000BP		押引文土器 Oshibiki-mon pottery 		
8000年前	7000BP	無文土器？ Plain pottery? 			
7000年前	6000BP	南島爪形文土器 Tsumegata-mon pottery 			

沖縄県南城市「サキタリ洞遺跡の発掘」パンフレットの最終16頁より
2010年から調査し、2018年にパンフレットなど奈文研が作成

沖縄・琉球の古代史の見直し

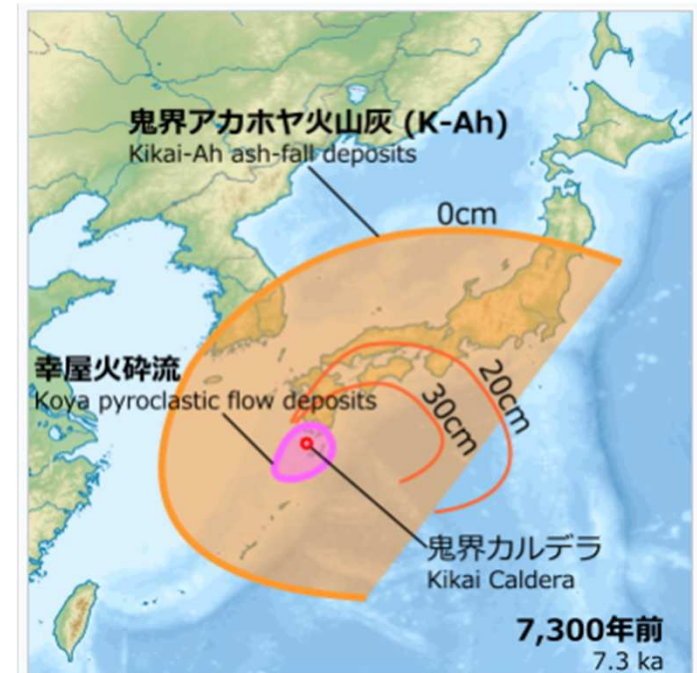
- 「沖縄の旧石器人の絶滅説」が虚偽と認識され、消滅したことから、沖縄の古代史が見直されることになる。その前に、行うべきことは、日本本土と沖縄の関係を見直すこと。
- まず、4万年前から歴史年代までの、重大な事象を見直す。



日本先住民到来以降の日本・九州の主な出来事

- 遺跡などの発見によって、日本先住民の活動が、全てではないが判明している。
- 海洋民族であった旧石器人(後の縄文人)は4万年前に日本に到来。
 - 3万5千年前、北海道へ渡り、サハリン・シベリアまで拡散。
 - 磨製石斧を使用。黒曜石を活用。世界的に稀に見る早い時期に石器を開発し、道具として活用
 - (3万8千年前/黒曜石獲得のため、伊豆の神津島まで往復航海)
- 3万年前：鹿児島湾の始良カルデラ大爆発発生。火砕流・火山灰被害甚大
 - 九州から四国・中国まで、壊滅的被害(先住民滅亡)。・・中部地方まで被害を甚大。
 - 6千年後の2万4千年まえ、鹿児島湾の北側に旧石器人の遺跡(耳取遺跡)誕生。
 - 到来した先住民は、始良カルデラ被害の少なかった東北・関東から来たとは考えられない。被害の無かった沖縄諸島から、舟で到来したものと推定される。
 - 鹿児島半島に梶ノ原遺跡誕生。定住集落を形成、煙道付炉穴を有し、南方文化を有する。隆帯文土器を残す。
 - 梶ノ原石斧(丸のみ型石斧)は1万4千年前に沖縄本島で開発、奄美大島に生産基地あり。
 - 梶ノ原へ来た先住民は、沖縄列島から来た旧石器人と考えるのが妥当。(沖縄で旧石器人消滅せず)
 - 桜島の爆発でサツマ火山灰で消滅

始良カルデラ爆発の火山灰被害の範囲



日本先住民到来以降の日本・九州の主な出来事-2

- 鹿児島・薩摩湾の北側に上野原遺跡誕生。9千5百年前。耳取遺跡の西側近く。
 - 7千3百年前、鬼界カルデラ大爆発でアカホヤの被害を被るが、人と遺跡は継続。
 - 鹿児島以北の熊本・長崎には、縄文人の住居遺跡拡散(甕式土器)。長崎には丸のみ型石斧多し。
 - 宮崎・大分には黒河式土器が拡散。
 - 九州北部まで、縄文人の住居と遺跡が拡散し、焼き畑農業が行われ、米、ヒエ/アワ、豆など栽培。
- 鹿児島の広田遺跡の南九州型縄文人が、北部九州の大友遺跡などには西北九州縄文人が、後の弥生時代まで存在した。西北九州縄文人は、鬼界カルデラ爆発以降に九州に移住してきた沖縄から来た先住民と推定する。
- 2千五百年ほど前、西北縄文人は、朝鮮半島南部の松菊里遺跡(BC500)に渡来していた水田稲作を渡来民と共に日本へ導入し、菜畑・曲り田・板付遺跡などで水田稲作を開始した。支石墓も導入し、墓制を変えた。
 - 水田稲作は数百年をかけて、瀬戸内海から大阪平野まで拡散した。
- 2千2百年ほど前、弥生渡来人が、大挙到来し、集落を作り、水田稲作地の開拓を開始した。
 - 西北縄文人とは、土地争いが発生し、戦争も発生したが、勝ち、弥生渡来民が、縄文人を混血し、水田稲作をベースに集落を拡大した。
- その後は、記紀神話にある高天原・天孫降臨・出雲国譲り・神武東征・大和政権誕生へと継続した。
- 始良カルデラ爆発で、人のいなくなった九州・四国・中国地方に、再到来したのは、海洋民族である沖縄・旧石器人で、九州から人口を増やしていった。
- 鬼界カルデラの爆発で、南鹿児島は、再び人がいなくなり、人口減少した九州北部へ渡来したのは、再び沖縄の住民と考えられるが、顔付などが、異なる処があった。大友人とも云われた西北九州縄文人で、縄文人と弥生渡来民の血が混じったとDNA判定された人々になる。

記載予定の項目

- 今日まで出来た分をダウンロードできるようにしました。
- 予定していて、書けていない分は下記の件です。18日までに書いて、発表する予定です。
 7. 九州の縄文人に、弥生渡来人のDNAが混在
 - 弥生時代まで生きた縄文人のDNA解析を行った結果、縄文人と弥生人の混血であったことが判明。
 - 韓国南岸部の6400年前の古代人のDNA解析の結果、縄文人と弥生人の混血と判明。
 - この件は、別頁で取り上げ、記述する。
 8. 沖縄の宝貝産地説
 - 新しい資料と材料が見つかり、別途説明、紹介を行う。
- 全部を仕上げず送ること、ご勘弁下さい。丸地三郎